

授業科目名	子ども家庭福祉	担当教員名	小島 知子
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める 科目区分 等	保育の本質・目的の理解に関する科目
必修・選択/単位数	必修 / 2単位 (30時間)	授業方法/担当形態	講義 / 単独
開講学年/学期	1年 前期 (1-2期) / 年間開講数 2講座	特記事項	※実務経験のある教員等による授業 乳児院、児童養護施設、児童家庭支援センターにおける児童福祉施設勤務（児童指導員、臨床心理士）、および幼稚園キンターカウンセラー、小中学校スクールカウンセラー、教育センターなどの実務経験を生かし授業を行う。
授業の概要 及び 全体目標	近年、子どもや家庭を取り巻く環境は大きく変化し、子どもの貧困、児童虐待、ドメスティック・バイオレンス（DV）など様々な問題が浮き彫りになっている。「子ども家庭福祉」では、全ての子どもと家庭が幸せになるために、保育者として必要な子ども家庭福祉の法制度、機関、サービスについての知識や仕組みについて学ぶことを目的とする。現代社会の現状と課題を知り、保育の専門家として何ができるのか、子どもの人権擁護についての視点を持ち、支援の具体的な援助について学びを深める。		
到達目標	①子ども家庭福祉における現状の制度や施策など基本的な知識を理解できる。 ②子どもの人権擁護について理解できる。 ③子ども家庭福祉の現状と課題について理解できる。 ④社会の問題として児童虐待・子どもの貧困問題などの実態を通じて、具体的な支援、援助活動を自ら考え、ニーズに沿う支援を述べることができる。		
テキスト	・実践に活かす子ども家庭福祉 編著 佐久間美智雄・坂本健（ミネルヴァ書房）¥2600＋税		
参考書・ 参考資料等	・新基本保育シリーズ3 子ども家庭福祉第2版 監修児童育成協会 編集 新保幸男 小林理（中央法規）2023 ・子ども家庭福祉概説 監修 小宅理沙（青山社）2022		
成績評価の方法	①平常点（受講態度）25% ②課題（授業後のレポート・授業内での発表、グループワークへの取り組み）25% ③理解度・到達度チェック（筆記形式）50%		
授業外（事前・事後）学習の方法、オフィスアワー等	・事前学習については授業時に指示する。 ・事後学習については毎回、コメントシートを提出する。 ・オフィスアワーは授業前後の時間帯で受け付ける。		
授業計画	授業の内容		到達目標番号
第1回	子ども家庭福祉とは何か 子ども家庭福祉の意義（人口減少、少子高齢化、合計特殊出生率）		①
第2回	現代社会と子ども家庭福祉（少子化の現状と背景、婚姻率、晩産化、非婚化、未婚化）		①
第3回	子どもの権利 （「児童の権利に関する条約」「児童福祉法」）		②
第4回	子ども家庭福祉の歴史 （日本と諸外国）		①
第5回	子ども家庭福祉の制度 （児童の定義・子ども家庭福祉に関する法律・子どもに関する施設）		①
第6回	子ども家庭福祉の実施機関を支える機関 （厚生労働省、こども家庭庁、家庭裁判所、児童相談所、福祉事務所、家庭児童相談室）		①
第7回	子育て支援1 少子化社会対策の動向 （少子化社会対策の動向、「エンゼルプラン」と「新エンゼルプラン」、「次世代育成支援対策推進法」、「少子化社会対策大綱」）		①,③
第8回	少子化対策の動向と多様な保育ニーズへの対応 子ども子育て支援新制度、保育所（地域型保育事業4つのタイプ） 理解度・到達度チェックテスト（筆記形式）		①,③
第9回	地域における子ども家庭福祉の推進「地域子ども子育て支援事業」		①,③
第10回	子どもの貧困の現状と課題		③,④
第11回	子ども虐待の現状と今後の課題		③,④
第12回	ドメスティック・バイオレンス（DV）・デートDVの現状と課題		③,④
第13回	特別な支援を要する子どもへの支援1 子どもの発達障害		③,④
第14回	特別な支援を要する子どもへの支援2 子どもと非行（非行少年とは、非行少年に対する支援、児童自立支援施設での支援）現状と課題		③,④
第15回	特別な支援を要する子どもへの支援3 子ども家庭福祉の今後の動向と展望 理解度・到達度チェックテスト（筆記形式）		①,②,③,④